
九州北部豪雨災害における初動調査報告～福岡県における調査報告～

(岡部敦子ほか、日本災害看護学会誌 14: 42-45, 1993)

2013年11月8日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

2012年7月に発生した九州北部豪雨において福岡県八女市黒木町では、7月11日～14日の豪雨の際、7月上旬から山間部を中心に降り続いた雨により土石流が発生し、平野部では増水した矢部川が決壊し被害は広範囲に及んだ。

<被害の概要と対応>福岡県では7月3日に死者1名、また、7月13日からの大雨では累計20万人に避難指示が出され、死者5名、重症2名、軽症11名、全壊した民家は90棟、半壊は54棟、一部損壊105棟、床上浸水1407棟、床下浸水4867棟の被害が発生した。7月3日からの被害で朝倉市に、7月13日からの被害に対して、久留米市、柳川市、八女市、筑後市、みやま市、うきは市、広川町の6市1町に災害救助法が適用された。

<調査方法>日本災害看護学会では、被災後4か月経過した2012年11月20日、福岡県内で被害が大きかった地域(北筑後・南筑後)の保健福祉環境事務所2か所を訪問し、被害状況や活動について調査した。

<調査結果>

1) 福岡県北筑後保健福祉環境事務所 健康増進課

□ 災害体験

7月14日は休日であったため、県からの第一配備体制の指示が出た18時以降、総務企画課の職員が2名体制で登庁し対応にあたった。

□ 住民の健康ニーズと支援

福岡県医療指導課より、在宅人工呼吸使用者等の被災状況確認の連絡があり、浸水した地域のALS患者の入院を支援した。要支援者や、特定疾患医療受給者、精神保健、在宅療養者等に対して、地元の開業医や訪問看護ステーションなどと連携して被害状況・安否確認を行った。保健衛生課からは、市町村に出向き被害状況の確認、資料提供や説明などが行われた。被災した市において16日までは現場の対応に追われており応援要請ができず、17日に健康調査への支援依頼があり、この時点で孤立地区の把握ができた。

□ 看護実践と必要性

20日から、被災市の健康調査支援に保健師2名が参加した。地元医師会、市、保健所からのスタッフ約40名が、孤立地区等(7か所)の公民館で健康相談(58名)や家庭訪問を行った。地域の病院への救急車配備を行い、3名救急搬送実施した。保健所からは資料配布と同時に、行方不明者の家族のメンタル面での相談等を行った。これら発災後約2週間の早期対応だけでなく、2～3か月後にも定例で心のケアを行った。

□ 外部支援の状況

各市町村で対応困難なケースの相談に応じたり、北筑後から南筑後管内へ5名の保健師を派遣した。